

(第3種郵便物認可)

本選に向け準備する村木君(左)と三代澤さん



村木裕太君・三代澤咲さん

秀峰 模擬国連大会出場へ

12、13日 上位は国際大会進出

松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)5年生の村木裕太君(17)と三代澤咲さん(16)のチームは、12日と13日に国際連合大学(東京都)で開かれる第16回全日本高校模擬国連大会本選に出場する。オンラインの予選会を通過した高校生たちが各国の大使になりきり、国連会議ながら英語のスピーチや交渉を重ねる大会で、2人は本選に向け入念に準備を進めている。(鎌倉 希)

80チームが2会場に分かれて本選に参加する。それぞれ国が割り当てられ、議題に対し事前に政策や立場を調べて準備。担当国や国際社会の利益を追求しながら各国の主張をすり合わせた決議案を作成・採択する。交渉力やリーダーシップが求められる。上位チームは来年、米ニューヨークで開かれる国際大会へ進む。

将来、国際的な仕事を視野に入れる村木君は「しっかり準備してリーダーシップを取り、入賞を目指したい」と意気込む。三代澤さんはさまざまな視点や会議の進行経験などが勉強になるといい、「国際的な課題には無力でも、身近なものから解決することが自分ができることだと実感する」と話している。

で、別の模擬国連大会も経験する2人は、今回を大成と位置づける。

地域
Local News

パソコン甲子園に出場する村木さん



パソコン甲子園と全日本模擬国連 秀峰5年生4人が出場

松本

松本秀峰中等教育学校(松本市)の5年生(高校)4人(いずれも17歳)が、高校生と高専生対象の「パソコン甲子園2022」プログラミング部門本選(5、6日、福島県)と「第16回全日本高校模擬国連大会・本選」(12、13日、東京都)に出場する。

力合わせ上位目指す

パソコン甲子園に出場するのは、的場岳斗さんと服部博さんのチーム。533チームが出場した予選で上位36組に入り、昨年に続き本選切符を得た。競技は、4時間の制限時間内に問題に対する解答プログラムを作り、正解した問題の合計得点で競う。2人は始業前や授業の空き時間、自主活動の時間に練習。ウェブサイトで毎週行う競技プログラミングコンテストにも挑戦し、腕を磨いてきた。

的場さんはアプリ開発者の父親の影響で、小学生の時にプログラミングを始めた。「自分が思い描いたことを実現できるプログラムにロマンを感じる」といい、「今年は対開催催なので、レベルの高い相手との対戦にワクワクする。ぜひ入賞したい」と意気込む。2人は高校生のプログラミング大会「第28回スーパーコンピュータ・コンテスト」(8月)で3位入賞。12月の情報オリンピック2次予選にも出場予定という。

◇

模擬国連大会には、村木裕太さんと三代澤咲さんが出場する。自分の国と関係なく割り振られた担当国の外交官になりきり、決議案



模擬国連大会に出場する村木さん(左)と三代澤さん

をまとめるための交渉力を2人組で競う。意見や提案は英語で交渉は日本語だ。

今大会の議題は「多国籍企業及び社会政策に関する原則の三者宣言」。2人は10月初めから担当国の経緯や歴史、社会保障、どんな多国籍企業があるかなどをインターネットや資料などで情報収集。出場した260チームのうち予選通過の80チームに入った。

村木さんは「大会の参加者が少ない地方にも模擬国連を広め、会議を経験する場を増やしたい」と自身で団体をつくり、県内の高校生とオンラインで活動してきた。

「論議するのではなく、相手国の立場を尊重しつつ考えをすり合わせ、納得のいく決議をまとめることが大切。大会への挑戦で英語力はもちろん交渉力、フット力が身に付いた」

三代澤さんは「初めは反対意見を恐れて主張することが苦手だったが、できるうちに力、フット力が身についた。補い合って来春、米国で開催される国際大会出場を狙いたい」と話した。